

人は過ちを繰り返す

人間は過去から何も学んでいない。この本を読んで改めてそう思いました。半世紀以上も前に、このように人間の愚かさを伝えてくみでいたのに、私たちは結局同じことを繰り返しているのです。このまま突き進めば本当に「沈黙の春」が来てしまいます。

著者レイチェル・カーソンは、この本の中で主にDDTを始めとする殺虫剤や農薬などの化学物質の危険性を指摘し、世界中の人々の目を環境問題へ向けさせました。このことは、本当に素晴らしい功績だと思います。彼女は、未来の地球の幸せを願って私たちに「気づき」という名のプレゼントを送ってくみたのでしよう。しかし、私たちはその贈り物を受け取ったものの、どうも間違った方向に進んでいるように思います。地球を破滅へと導いているのです。

私たち人間は、自然や動物、果ては同じ種である人間までも支配しようとしません。そして

て、思うようにその物がなうなければ、それを壊したり、非難したりと好き勝手にふるまうのです。もちろん、精神的に成熟していて仙人のように、怒りとは無縁な人の中にはいるでしょうが、大半はまだそこまで成長できていないはずで、自分はその様なことはないと思っっている人でも、自分が言った通りに相手が動いてくればなくて腹を立たたことはあるでしょう。私もそういうところは、多少あります。

このような人間の傲慢さを作者は、実際に起こった出来事でも示してくれています。乾燥した地域に生えているヨモギの一種を取り除こうとして、さうに不毛の地にしてしまった。た、道端に生えているグタクサを除去しようとして逆にグタクサばかりになってしまった。なごです。この例は、人間が自然を自分たちの都合の良いようにコントロールしようとした結果です。

自然は人間が誕生するよりも前にいた存在

です。本来、人間が手を入れなくても、完成
 するようになっています。しかし、人
 は果実を取ったり、火を起こしたりするの
 に木を切ったりと、自然の力を借りなくて
 は生きていけません。そうになると、食料
 などを得るここによって崩れてしまった
 自然界のバランスを整える責任は人間に
 あるのではないでしょう。

この「沈黙の春」という本は、発売から
 半分で五十万部も売れた大ベストセラー
 だ。今もなお環境問題を語るにはかかせ
 ないほどの存在です。世界中の人々が
 この本に感銘を受けたはずですが、今、
 私たちが抱えている環境問題は小さく
 なるどころか、さらに膨れ上がって
 います。結局、自然破壊は止ま
 っていないのです。いまだに、人間の
 お金に對する執着などが自然に對する
 リスペクトよりも勝っていること
 だと思います。木が枯れても新たに
 植えることができるのは人間だけ
 です。サルは木を植えてはくま
 せん。フ

まり、この地球の自然を管理するべき存在は人間だ。という事です。この管理人がしっかりと務めを果たさなければなりません。自分のためなら、他人や自然を踏みつけては、悪いというよりよきな傲慢な人が増えては、自然破壊という過ちを繰り返していることになり、ます。自然が破壊されること、大切な資源を得る事ができなくなり、因果応報とはまさにこのことです。

私は、今回この本に出会って改めて思います。した。人は、驕り高ぶってはいけません。謙虚であるべきだと。このような過ちをし続けることがないよう、自分なりの改善策を考え、ていくと思います。